

私立 長岡造形大学

取組名称 個別就職相談会の実施と就職支援システムの導入

取組担当者 学生支援課 学生支援課長 鈴木 一典

1. 本学の概要

長岡造形大学は、「造形を通して真の人間の豊かさを探求する人材を養成する」ことを建学の理念とし、1994(平成6)年4月に開学された。

本学は、デザインを美術的な面からだけでなく、工学・情報・経済・環境等の様々な側面から総合的に捉えることで、デザインの新しい可能性を探求している。「プロダクトデザイン」「視覚デザイン」「美術・工芸」「建築・環境デザイン」の4学科の下に19のコースを設置し、様々な視点からデザインとアートを学び、社会のため、地球のため、そして未来のために新しい提案ができる人材を育成している。

また、校舎は、設計や構造そのものが建築デザインの教材であり、緑に映えるオープンな校舎はコンクリートの打ち放しで、色はモノトーン。これは、4年間の大学生活で新しいものを自ら発見し、キャンパスに色彩を与えて欲しいという学生へのメッセージにもなっている。

2010(平成22)年春には第3アトリエ棟が完成し、新たに1年生専用のアトリエ、市民工房等が設置された。新棟はリズムカルに配置された窓が光と風を誘い、屋内にしながら自然を感じる空間となっている。

2010(平成22)年に開講した市民工房では長岡エリアのデザイン&アート発信基地として一般市民を対象に「ガラス」「純銀アクセサリー」「染色」「陶芸」「織」等の講座を行っており、専門講師の指導により市民が「長岡発」の作品づくりにチャレンジしている。

2. 本取組の概要

今回の取組は、指導体制強化の一環として、実社会で活躍する就職相談員による個別就職相談会を実施し、よりきめ細やかな指導体制を目指すものである。この目標を達成するために、就職に関する各種情報の円滑な伝達、相談会の利用率・利便性の向上等をねらい就職支援システムを導入し、利用学生の意識・利便性の

向上を図った。

本学は、デザインを美術的な面からだけでなく、工学・情報・経済・環境等の様々な側面から総合的に捉えることを重視している。そのため、就職相談員との個別相談を通じて学生の就職に対する意識を向上させるとともに、社会の広範囲な分野で活躍する相談員を別途登用して個別相談を充実させることで、学生の視野を広げながら社会の様々な分野で活躍できる学生の育成を目指した。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 全体

最終目標としては、就職率の向上を目指している。

本学では学んでいる分野を活かし、デザイナー等の専門職としての就職を目指す学生が大多数となっている。そのため学生は視野が狭くなりがちで、様々な業種、職種に対して興味を持つことがなかなかできない。また学生の学んだことが実社会でどのように活用できるのかを実感を持って捉えられる機会も少ない。

さらに経済状況の悪化による求人状況の変化で、今まで以上に就職活動が厳しくなっており、学生の抱える様々な不安がより一層複雑になってきている。

学んだことがどのように社会で活用できるのを知り、様々な業種、職種に興味・関心を持ち、それによって今まで以上に積極的に就職活動を行えるよう学生にきめ細かな指導をすることが必要である。

そのために、実社会で活躍する就職相談員による個別就職相談会を実施し、学生に対して学んだことをどのように活用できるのかなどを伝えるとともに、可能な限り学生個々が抱える様々な悩みや問題に対して適切な回答ができるような就職指導体制の確立を目指すこととした。

また、就職支援システム導入により、就職に関する各種プログラム等の情報を円滑に伝えるとともに、各種プログラム終了後はシステム内のアンケート機能等を活用することによって、より満足度の高いプログラ

ムを新たに提供できる環境をつくることで、学生の就職に対する意識・利便性の向上を図ることを目指した。

以上の個別就職相談会の実施と就職支援システムの導入により、学生の就職に対する意識・利便性を向上させるとともに、社会の広範囲で活躍する相談員の登用により、狭くなりがちな学生の視野を広げ、様々な分野でキャリア形成できるように支援することで最終的に就職率の向上を目指すこととした。



図 1 就職支援システム (PC 版)

(2) 本年度

「学んだことを専門職以外ではどのように活用していけばよいかわからない」などといった、学生が抱える様々な問題に対して、可能な限りきめ細やかで適切な回答が行えるような就職指導体制の確立を目指し、様々な分野で活躍する相談員による就職相談会を実施した。これにより学生一人ひとりに合わせた個別就職アドバイスをを行う体制の構築を目指した。また学生が幅広く情報を収集できる仕組みとして就職支援システムを導入し、就職支援に役立つコンテンツ、企業情報等を順次充実させてくためのベースを構築していった。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 就職・仕事相談会の実施

より多くの学生が参加できるように3/19と26の計2回実施した。両日ともに、第1部・3部は採用コンサルタントによる就職活動のスケジュール、筆記試験の種類等の基礎知識から書類の書き方、面接の対策等といった就職活動全般に関する講演を、第2部ではクリエイティブ系の企業で活躍している方を相談員として招き「就職・仕事相談会」を質疑応答に重点を置いた座談会形式で開催した。

第1部：13時00分～13時40分

(3/19)「応募書類の書き方講座」

多くの企業で提出を求められるエントリーシート等の書き方について、採用コンサルタントが解説した。志望動機、自己PR等では企業研究、自己分析が必要となるため、単に書き方だけではなく、企業研究、自己分析の重要性、方法の解説、実践まで行った。

(3/26)「面接対策講座」

様々な面接の種類、面接時のマナーについて、そして面接時に注意する点等について採用コンサルタントが解説した。また前回行った応募書類の書き方でも解説した企業研究、自己分析の重要性をここでも改めて学生に伝えた。

講師 (両日ともに)

株式会社ディスコ 採用コンサルタント
高野 裕 氏



写真 1 学内合同会社説明会

第2部：13時50分～15時30分

「就職・仕事相談会」

最先端の映像技術を追求する制作プロダクション、広告・宣伝に関する企画・制作等様々なソリューション活動を行っている企業、ブランディングをキーにした企画力のあるクリエイティブを提供する企業、ゲームを中心としたデジタルエンタテインメントのコンテンツ制作会社等の社員を相談員として招き、企業や職種についての説明、業界全体の動向について話していただいた。

相談員自身が学生時代に学んだこと、学んだことが実際の仕事でどのように役立っているのかといったことはもちろん、詳しい仕事内容や働く上での厳しさ等を生々しく伝えていただいた。

特に、成功体験や失敗談等に学生の関心が集まったようだ。

今回の相談会は相談員が一方的に話すのではなく、学生が様々な悩みを解決できるよう、質疑応答に重点を置いた座談会形式で開催した。

第3部：15時30分～15時45分

「まとめ」

採用コンサルタントから当日のまとめを解説した。全体を通して、参加学生からは「本学の特質を踏まえた上で、企業の方からお話をいただけたのは有り難い」「就職活動に向けて参考となる話を聞くことができた」「採用コンサルタントの方から現場の実情を聞いた」「もっと話を聞きたかった」などの感想を得、大変好評であった。

一方で「もっと幅広い分野からの相談員の方との座談会を計画して欲しい」「座談会形式よりも個別相談形式に特化して欲しい」など、今後の就職プログラム計画の際に参考となる意見もいくつかあった。

今回のメインプログラムともいえる「就職・仕事相談会」では学生が目標とする業種、職種に比較的近い企業からの相談員だったこともあり、自分の学んでいることが社会にどうつながっていくのか、具体的にどのような仕事をするようになるのかなど、ある程度実感をともなって理解できているようだった。



写真2 就職相談会（第2部）の様相

（2）就職支援システムの導入

本就職支援システムは、本学学生へ就職イベント、ガイダンス、就職相談会等の各種就職プログラム情報を円滑に伝達することを目的とした。

また、学内の限られた相談員に対して相談が集中する時間帯等があり、学生を長時間待たせる、相談が短時間になってしまうなど個々の学生に対して満足な対応ができないケースもあったため、システム上で個別相談予約を可能にすることで、学生の利便性と相談員の業務効率化を図った。加えて、システム内の学生ア

ンケート機能等を活用し、各種アンケートを実施することで、各種プログラムの満足度等を効率的に可視化、把握することができた。

またアンケート結果を効率的に把握することで、今後各種就職プログラムの改善を行い、学生に対してより満足度の高いプログラムを提供する予定である。

以上の機能のうち、学生のシステム利用向上のため、一部は携帯電話での対応も可能とした。

これらを通じて、選定された取組をさらに充実・発展させ、本学学生へ提供する就職支援の質、学生の満足度向上、相談員の業務効率化等を図った。

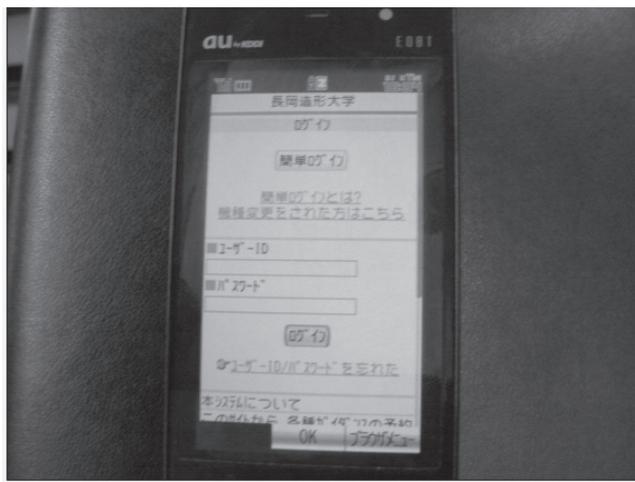


写真3 就職支援システム（携帯版）

5. 本取組の評価体制・評価方法

個別就職相談会の実施では、映像制作、Webデザイン、広告業界等外部からプロフェッショナルを招いたことにより学生が大いに刺激を受け、幅広い分野における生きた情報を収集することができた。質疑応答では就職について様々な疑問や課題・不安を抱えた学生に、相談員の幅広い経験に基づいた個別就職アドバイスをすることができ、キャリア形成へのモチベーションを高めることができた。また学生だけでなく、学内の相談員にとっても様々な情報を収集することができる場となり、日常の学生相談における参考となった。

また、就職活動対策の講座もあわせて実施したことにより、具体的な就職活動対策ができ、就職支援への全学的取組意識の醸成と就職支援体制の強化を図ることができた。

さらに、開催にあたっては、就職支援システムを導入し充実したことにより、学生への情報伝達の効率化を図ることができた。

本取組の評価方法としては、今後の参考となるよう、

可能な限り詳細な質問項目を設定したアンケートを準備し、就職支援システム等を活用することで回収率の向上を目指した。また学生へのアンケート実施だけでなく、個別就職相談会の講師、相談員に対して、参加した学生の取組の姿勢等についてヒアリングするなど、様々な視点で結果を把握するよう努めた。当然ながら学生支援課スタッフも個別就職相談会に参加し、学生の取組の姿勢、講師、相談員の対応について随時確認を行った。

アンケート等の結果はデータ入力を行い、今後の就職プログラム計画の際、参考となるよう基礎データとして保存している。

集計したアンケート結果は学生支援課スタッフで情報を共有したことはもちろん、学内の就職に関する委員会内で報告するなど、全体で結果を把握し、今後の参考となるよう努めた。

また相談員との質疑応答やアンケートの自由記入項目等で、気になる部分があった学生については、直接指導している教員等に詳細を伝えるなどして、今後の個別相談時の参考となるよう情報を共有した。

6. 本取組の実施計画等

- 2010年2月上旬 就職支援システムの導入
学生への告知・利用促進
- 2010年3月19日 個別就職相談会1回目開催
- 2010年3月26日 個別就職相談会2回目開催